

サステナビリティ関連データ

サステナビリティ・マネジメント | 最重要課題（マテリアリティ） | マテリアリティKPI

サステナビリティ・マネジメント

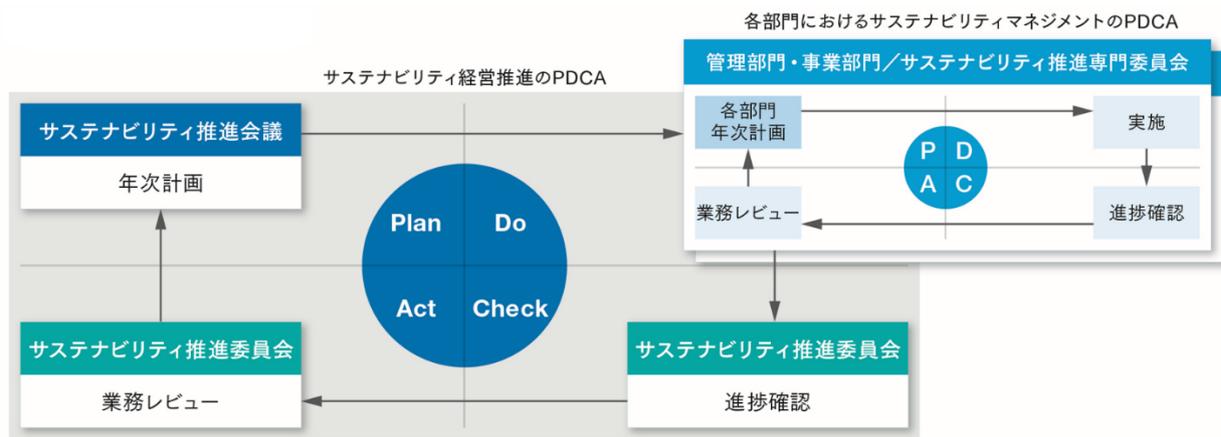
サステナビリティ推進指針

三菱ガス化学グループは、ミッション「社会と分かち合える価値の創造」のもと、環境・社会・企業統治の各要素における企業責任を強く意識し、「MGC企業行動指針」に基づき事業展開することで、サステナブルな社会の発展と調和に貢献します。

MGC企業行動指針

1. イノベーションを通じて、社会のニーズに応える優れた製品・サービスを提供し、その満足と信頼の獲得、課題解決と持続可能な成長への寄与を果たします。
2. 環境問題へ自主的、積極的に取り組み、事業活動全般を通してその解決に努めます。
3. 法令や諸規則を遵守し、公正で透明・自由な事業活動ならびに適正な取引、責任ある調達を行います。
4. 積極的・効果的・公正な情報開示を行い、広く社会とのコミュニケーションに努めます。
5. 「良き企業市民」として、社会に役立つ事業活動を行うとともに、積極的に社会に参画し、その発展に貢献します。
6. 社員の能力を高めるとともに、安全で健康かつ働きがいのある労働環境を確保し、社員のゆとりと豊かさを実現します。
7. 企業活動にかかわる環境変化を注視して、多様化するリスクを常に検討し、対応に努めます。

サステナビリティ推進体制



サステナビリティ推進会議

議長	社長（招集・決裁者）
副議長	CSR・IR部担当役員
参加者	役付役員、事業部門長、並びに社長が指名する者 監査役はオブザーバーとして参加
事務局	経営企画部、CSR・IR部 サステナビリティ推進室
開催	年二回以上開催
目的	①全社方針の審議・決定 ②マテリアリティの審議・決定とKPI設定 ③年次サステナビリティ推進計画の評価・決定 ④サステナビリティ・マネジメントの進捗状況の確認 ⑤サステナビリティ推進体制の構築・整備 ⑥個別事案に係わる対応方針の審議決定 ⑦是正措置の勧告 ⑧情報共有

サステナビリティ推進委員会

参加部門	経営企画部、総務人事部、財務経理部、情報システム部、CSR・IR部、研究推進部、新規事業開発部、原料物流部、環境安全品質保証部、生産技術部、内部監査室、事業管理部並びに事務局が指名する部門
事務局	CSR・IR部 サステナビリティ推進室
開催	議案に応じて随時開催
目的	①サステナビリティ推進会議上程議案の審議 ・全社方針、マテリアリティ、年次サステナビリティ推進計画、サステナビリティ推進体制進捗確認、業務レビュー等 ②各種専門委員会の設置

最重要課題（マテリアリティ）

マテリアリティの特定プロセス

ステップ 1	特定	GRI、ISO26000、SDGs、SASBなどの要請事項、他社動向などを参考に、600を超える社会課題や社会変化に関するキーワードを抽出。
ステップ 2	キーワードの集約	社会課題や社会変化に関するキーワードをテーマ別に分類し、39項目のマテリアリティ要素に集約。
ステップ 3	優先順位付け	「ステークホルダーにとっての重要度」と「三菱ガス化学グループにとっての重要度」の2つの観点から、マテリアリティ要素の重要度について、自社で評価。サステナビリティ推進委員会にて、優先順位を付けたマテリアリティの検討を行い、サステナビリティ推進会議へ上程。
ステップ 4	経営層の審議・承認	サステナビリティ推進会議にて、サステナビリティ推進委員会が上程したマテリアリティの審議を行い、マテリアリティを承認。
ステップ 5	特定したマテリアリティの見直し	マテリアリティは、社会からの要請の変化、ステークホルダーからの意見やニーズによって変化するものであることから、今後、社会や三菱ガス化学グループの事業活動が

変化した場合は必要に応じて見直しを実施。

マテリアリティと主な取り組み 「社会と分かち合える価値の創造」の追求

マテリアリティ		重要性の背景	三菱ガス化学の主な取り組み
区分	要素		
価値の創造 (CSV)	事業を通じた貢献 ・ ICT・モビリティ社会発展 ・ エネルギー・気候変動問題解決 ・ 医療・食糧問題解決	製品・事業を通じて「社会と分かち合える価値の創造」を追求することが、経済・社会・環境の各面から企業価値の向上につながる	ポリカーボネート、ポリアセタール、超純過酸化水素、エレクトロニクスケミカル、光学樹脂ポリマー、半導体パッケージ材料（BT材料）などによるICT・モビリティ社会の発展、地熱発電、LNG火力発電事業、機能性モノマーによるエネルギー・気候変動問題の解決、抗体医薬、発酵食品などのライフサイエンス製品、脱酸素剤、MXナイロンなどによる医療・食糧問題の解決など、事業を通じて社会の発展・問題解決へ貢献
	SDGs（ターゲット）との関連  3.6 3.8 4.4 7.2 7.3 8.1 9.4 11.4 12.2 12.3 17.3 17.16		
価値創造の基盤 (S)	働きがいのある企業風土の醸成	社員一人ひとりが個々の事情に合わせて、安心して働きがいをもちながら長期的に活躍できる制度・風土が、企業価値の創造の基盤になる	ワークライフバランスの推進、育児介護制度の充実、活力のある職場環境づくり
	ダイバーシティ&インクルージョンの推進	多様な価値観のコラボレーションによる文化・風土の確立が、新機軸・技術革新を生み出す	女性活躍の推進、キャリアアップ支援策の実施、仕事と家庭の両立支援制度の充実、障がい者雇用の推進
	ステークホルダーエンゲージメント	企業価値の創出は、ステークホルダーによるリソースの提供や貢献の成果である	法令や証券取引所の定める規則に則った情報開示、ホームページや報道機関を通じた公平かつ透明性のある情報開示
	CSR調達の推進	サプライチェーン全体における環境・労働環境・人権などのCSR水準の向上は、企業の社会的責任である	法令遵守、環境・安全に配慮したサプライチェーンの構築
	労働安全衛生・保安防災	安全は事業活動の基盤であり、安全確保は社会への責務である	「無災害」の達成を目指した安全に関する教育訓練、労働安全衛生リスクアセスメントの実施、日常の安全活動の継続
	省資源・省エネルギー・高効率による生産	持続可能な開発という原則の下に、その事業活動を地球環境の保護に調和させるよう配慮することは企業の責務である	環境影響の少ない資源調達、資源の効率的な使用（エネルギー、原材料、水など）

	<p>化学品・製品の品質・安全性の確保</p>	<p>品質保証はステークホルダーの信頼に基づくものであり、安全性・信頼性の高い製品・サービスの提供は責務である</p>	<p>サプライチェーンを俯瞰した全社的な品質保証活動（Q-MGC）の推進</p>																				
	<p>新しい価値を生み出す研究開発の推進</p>	<p>社会の発展・問題解決に資する価値ある新たな製品・技術を生み出すことが、「社会と分かち合える価値の創造」を追求する製品・事業となる</p>	<p>長年培ってきたコア技術を最大限に活用した新プロセスの創出・導入、新規事業の創出・育成</p>																				
<p>SDGs（ターゲット）との関連</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.8 3.9</td> <td>4.2 4.4</td> <td>5.1 5.5</td> <td>6.3</td> <td>7.3</td> <td>8.2 8.7</td> <td>9.4 9.5</td> <td>10.2</td> <td>12.2 12.4 12.6</td> <td>16.2 16.10</td> </tr> </table>														3.8 3.9	4.2 4.4	5.1 5.5	6.3	7.3	8.2 8.7	9.4 9.5	10.2	12.2 12.4 12.6	16.2 16.10
																							
3.8 3.9	4.2 4.4	5.1 5.5	6.3	7.3	8.2 8.7	9.4 9.5	10.2	12.2 12.4 12.6	16.2 16.10														
<p>価値創造と環境保全の調和（E）</p>	<p>環境問題への積極的・能動的対応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 大気保全 ・ 水保全 ・ 生物多様性保全 ・ 廃棄物削減 	<p>環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動に必須の要件として、主体的に行動しなければならない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ RC中期計画とRC年度計画を策定し、目標達成に向けた取り組み ※RC：レスポンスブル・ケア ・ TCFD対応を含むGHG排出量削減対策 																				
<p>SDGs（ターゲット）との関連</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3.9</td> <td>6.3</td> <td>12.2 12.4 12.5</td> <td>13.2</td> <td>14.1 14.3</td> <td>15.1</td> </tr> </table>										3.9	6.3	12.2 12.4 12.5	13.2	14.1 14.3	15.1								
																							
3.9	6.3	12.2 12.4 12.5	13.2	14.1 14.3	15.1																		
<p>価値創造の規律（G）</p>	<p>体制の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ コーポレート・ガバナンス ・ コンプライアンス ・ 内部統制 ・ リスクマネジメント 	<p>企業がビジネスモデルを実現するための戦略を着実に実行し、持続的に企業価値を高める方向で規律付ける仕組み</p>	<p>適切なコーポレート・ガバナンスを前提として、実効性のある内部統制システムを構築し、コンプライアンスの実践やリスク管理などにより企業活動の健全性を確保</p>																				
<p>SDGs（ターゲット）との関連</p> <table border="0" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>5.1 5.5</td> <td>8.7</td> <td>10.2</td> <td>16.2 16.5 16.10</td> </tr> </table>								5.1 5.5	8.7	10.2	16.2 16.5 16.10												
																							
5.1 5.5	8.7	10.2	16.2 16.5 16.10																				

マテリアリティKPI

事業を通じた貢献（CSV） 連結ベース

KPI項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2030年度 目標	SDGs（ターゲット） との関連
ICT・モビリティ 用途売上高	2,835億円	3,200億円	デジタル革新を加速 する新規事業の創出	  3.6 9.4
エネルギー・環境問題 解決への貢献	投融資：139億円* (2021～2023年度 想定累計)	投融資：120億円* (3年間累計)	カーボンネガティブ技術 の事業化	 9.4
医薬・食料用途 売上高	562億円	500億円	<ul style="list-style-type: none"> ● 予防・予測医療の 高度化、健康寿命 の向上 ● 食品保存技術の さらなる高度化 	  3.8 12.3

* 連結、投資：取得、融資：決裁ベース

価値創造の基盤（S） 単体ベース

KPI項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2030年度 目標	SDGs（ターゲット） との関連
年次有給休暇取得 の10日未満者の 割合* ¹	4%	0%	0%	 8.5 8.8
重大労働災害* ²	1件	0件	0件	 3.9
重大事故* ^{1,3}	0件	0件	0件	 3.9
GHG排出原単位 2013年度比	8.6%削減	19.9%削減	28.0%削減	 7.3
気候変動問題解決 のために投じる研究 開発費* ⁴	研究開発費の 13%	研究開発費の 5%以上	研究開発費の 7%以上	 9.5

環境問題への積極的・能動的対応（E）単体ベース

KPI項目	2022年度 実績	2023年度 目標	2030年度 目標	SDGs（ターゲット） との関連
GHG排出量 2013年度比	34%削減	28%削減	36%削減	 13.2
購入電力の再生可能 エネルギー導入率	19%	10%	50%	 7.2
廃棄物 ゼロエミッション率*5	0.25%	0.3%以下	0.15%以下	 12.5

*1 年休付与日数が20日の社員について

*2 休業災害であって、死亡災害、永久労働不能災害を伴うなど障害補償の対象になった、またはその可能性のある障害、休業日数が4日以上であるもの

*3 地域に係る環境汚染や地域住民が被災するなど第三者に脅威を与える事故、重大労災を伴う事故

*4 基礎研究、パイロットプラント、実証実験などの研究開発投融資

*5 最終処分量÷産業廃棄物発生量×100